

木村禧八郎 きむらひちろう 經濟評論家。明治二十四年二月一日東京生れ、昭和五十年五月十二日没（九〇一七五）。大正十二年慶應義塾大學經濟學部卒。時事新報社入社、雜誌「エコノミスト」同人、外務省屬託等を経て、昭和二十一年「北海道新聞」論說委員長、同年參議院議員（當選一回）。また世界經濟研究所理事、木村經濟研究所所長歴任。

著書「インフレーション」(昭和十四年十二月二十一日岩波書店「岩波新書」)、「インフレーション研究」(共著・昭和研究会、昭和十六年一月二十六日生活社)、「インフレーションー現状の分析と對策」(昭和二十年十二月二十日時事通信社「時事叢書」)、「社會主義的政府が出来たら」(合著・鈴木茂二郎監修一編、昭和二十一年四月五日労働文化社)、「紙幣の運命」(昭和二十四年十一月二十日岩波書店「岩波新書」)、「基地日本ーしなわれいく祖国のすがた」(共編著、昭和二十八年五月二十日新光社)、「危機は、こゝから来てゐる」(合著・吉野源二郎編、昭和二十九年三月二十日厚文社)等。
『木村禧八郎ー一心不乱の生涯』(木村經濟研究所編、昭和五十一年四月五日札幌・北海道新聞社)刊。



木村禧八郎

木村經濟研究所編

北海道新聞社